

# ささえあい

## —2017年 10月号—

- P2 おうちで療養相談センターご紹介
- P3 私の人生ノート 医師会が提案
- P4～5 9月のウォーキング会報告
- P6 訪問看護ステーションからひと言 12
- P7 介護職～文化を語る その3
- P8 訪問診療のエピソード 第14回

発行 NPO法人前橋在宅ケアネットワークの会

〒371-0037 前橋市上小出町2丁目-4 2-5 斎藤浩様方

TEL027-235-6283 FAX027-235-6284 Email: info@npo-sasaeai.net URL: http://www.npo-sasaeai.net

本紙は高齢者の住みよい街づくりを願い、医療・介護の従事者、関心ある市民にむけ年4回、毎回2000部発行しています。趣旨にご賛同で購読希望の方はぜひご入会をお願い致します。



新装なった医師会館 岩神町(旧共愛学園跡地)

## 医師会館 新築移転ご挨拶

前橋市医師会会長 田中 義



前橋市医師会会長の田中です。タイミングよく平成29年度の初日である4月1日に前橋市医師会新医師会館の竣工式を行うことができました。

振り返りますと、朝日町の旧医師会館は、昭和52年9月に建築され、今年でちょうど40年になります。建物の老朽化が進み、豪雨時に雨漏りがひどくなってきたため、中屋前会長のもと、平成26年5月の臨時総会で新医師会館の建設が承認されました。多くの会員をはじめ前橋市からも寄付を頂き大変感謝しております。

この会館は、2階は医師会事務局で、1階は「訪問看護ステーションまえばし」、「居宅介護支援センターいしかい」、そして平成28年4月にオープンした「おうちで療養相談センターまえばし」の事務所となっております。地域包括ケアシステムの拠点として期待しています。

時間がありましたら、是非ともご覧頂きたいと思っております。

# おうちで療養 相談センターまえばしの活動内容!

前橋市医師会 在宅医療介護連携推進事業担当理事 家崎桂吾

前橋市医師会では来たるべき超高齢化社会に向け、誰もが高齢になっても住み慣れた地で安心して最期まで暮らせる街づくりのお手伝いをするために、前橋市より委託を受ける形で「おうちで療養相談センターまえばし」という窓口を医師会館内に設置しました。

**おうちで療養 相談センターまえばし**

**在宅療養を支えます!**

患者さんの症状に応じた住診医を紹介して!

医療機関  
医療ソーシャルワーカー

看取りのケアプランのアドバイスを!

介護支援専門員

重症な利用者さんに気をつけることは!

介護職  
サービス事業者

**お気軽にご相談ください!**

相談への対応は  
経験のある看護師、社会福祉士等  
が担当します

**相談無料**

前橋市を5ブロックに分けて  
多職種でサポートする体制を構築します



- 当センターが行う事業**
1. 在宅医療の推進について
  2. 病院・診療所連携の推進について
  3. 在宅医療・介護連携推進事業について



「おうちで療養相談センターまえばし」では医療・介護関係者、地域包括支援センター等から在宅医療に関する困りごとや疑問点など具体的な相談受付を行っています。その場で即答出来なくても、後日調べ直して丁寧に対応しています。相談件数は現在のところ月に20〜30件程度で、相談の多くはケアマネジャーの皆さんから頂いています。医師や各病院の退院支援室などからも頂いています。

相談受付は  
月曜日から金曜日の**9時〜17時**  
電話番号は  
**027-2333-2264**です。

在宅医療や介護サービスの関係するお困り事などお気軽にご相談下さい。

事業内容は上の図をご覧ください。  
相談業務以外では、誰でも参加で



特徴的な試みとしては市内を5ブロックに分け、各ブロックで「医療と介護の連携会議(5ブロック会議)」を行う事とし、その地域で在宅医療を行っている医師や歯科医師、薬剤師、対応する地域包括支援センター、社会福祉協議会のスタッフに参加していただき、多職種のスタッフ間の顔の見える関係と連携強化を図ることを目的に会議を開始しています。

今後、順次参加職種を拡大して地域包括ケアシステムの構築のお手伝いをしていきたいと思っています。

社会福祉協議会の協力を得て自治会への出前講座も開始しています。

医療介護者を対象に病院から在宅医療に移行した症例の検討会「前橋地域病院在宅連携の会」や多職種参加型の研修会も年に数回行っています。

前橋市主催の「健康フェスタ」においては毎年在宅医療に関する市民公開講座を開催し、また市民福祉協議会の協力を得て自治会への出前講座も開始しています。

医療介護者を対象に病院から在宅医療に移行した症例の検討会「前橋地域病院在宅連携の会」や多職種参加型の研修会も年に数回行っています。

きる情報交換会「在宅医療サロンまえばし」を毎月第三金曜日開催し、多職種での情報交換を行っています。参加ご希望の方はお問い合わせ下さい。

前橋市主催の「健康フェスタ」においては毎年在宅医療に関する市民公開講座を開催し、また

# 「私の人生ノート」

前橋市医師会 理事 下田隆也

「自然の流れを大切に、何もしないでほしいです。身内に胃瘻のひとがいる。そういう人を見てきたので」

「自然で何もしないということ、叶わないのでしょうか。夫とも話をしている。次女とも。管を入れたりはされたくない」

「自然には逝けないのかしら？ 結局何かしなくては、と家族は思うし、医者もそう思うのでしょうか」

ある施設の療養者の言葉です。



私の思い、願い、大切な人へのメッセージなどを つづってみてはいかがでしょう？

「最期まで自分らしく生きるために」今考えること...

## 私の人生ノート

配布場所：前橋市役所・地域包括支援センター・前橋市社会福祉協議会  
市内病院・診療所・おうちで療養相談センターまえばし（前橋市医師会）

お問い合わせは \_\_\_\_\_ まで

人生の最終段階を悔いなく自分らしく過ごしたい。前橋市医師会は2017年3月、前橋市、群馬大学大学院保健学研究科、前橋赤十字病院、群馬中央病院、済生会前橋病院、群馬県看護協会、おうちで療養相談センターまえばし、居宅介護支援センターいしかいのスタッフと共同して、事前指示書「私の人生ノート」を作成しました。

患者さんの本当の「こころ」はどこにあるのか？ そんな想いからスタ

ートし議論を重ねた結果、完成された切な方に「伝える」、後半では医療や介護について「考える」、分からないことは専門家と「相談すること」を目的とした構成となっております。

ただし、「私の人生ノート」に一生懸命に自分の思いを書いて、タンスや金庫に大切にしまっておいてもあまり役には立たないかもしれません。書いて埋めることだけが目的ではありません。自分自身が考えるきつ

かけ、家族と考えるきっかけ、専門家と相談するきっかけを作り、対話を促進する媒体となるのが、この「私の人生ノート」の大きな目的です。

家族のことを考え、そして自身身の将来のことも考え、備えねばなりません。あなたの思い、願い、大切な人へのメッセージなどをつづってみてください。

最期まで自分らしく生きるために、ご自分の人生を振り返りつつ、考え話し合う。そんなきっかけに「私の人生ノート」がなれたら幸いです。

大切にしたいのは



の出会いです

新時代の医療・福祉施設のニーズに 대응して、ご利用者を見つめた総合サービスを追求します。

-事業内容-

- 寝具類の賃貸借及び洗濯・白衣・カーテンリース・総合リネンサービス
- 医療・福祉関連の業務用品、設備機器の販売・リース
- 売店経営、各種業務代行、衛生環境管理サービス

ほか



ワタキューセイモア株式会社  
北関東営業所

群馬県太田市藤阿久 749-7 〒373-0034  
電話 0276-20-6500 FAX 0276-31-0333

健康と快適の明日を考える  
WATAKYU SEIMOA

# ■9月のウォーキング会 楽しかった！「朝の街なかで朝食をく」

東前橋整形外科クリニック 佐藤宏記(柔道整復師)

9月10日(日)朝7時半から、前橋市民健康クラブの9月ウォーキング会「朝の街なかで朝食をく」が開かれました。街なかの

キングを朝実施するので参加見込み数のパンと飲み物を用意して貰えな  
いか…と相談し、快くご協力をいた

ただきました。朝のウォーキング会  
は初めてのことで朝食セットをいく  
つ用意したらよいかも不明の状態で、

また一時に大勢でお店に詰めかけた  
ら販売も困難に…などいろいろ心配  
もありましたが、思い切って挙行。お  
陰さまで参加者も89名といつもより  
多めの申し込みがありました。

朝7時半、開会の挨拶と柔軟体操。  
今回はこのほど発足した女子サッカー  
チーム群馬FCホワイトスターの

活性化は本会の使命  
のひとつ。今回は前  
橋テルサの東で営業  
されているパン工房  
「シヤトア」さんに  
協力を依頼、ウォー



群馬FCホワイトスターの  
石川GMから激励の挨拶が





石川ゼネラルマネジャーから激励と連帯の挨拶がありました。柔軟体操後は希望により5kmコース組と2・5kmコース組に別れ心拍数を記録。早速ウォーキングに出発しました。朝は皆さんの日頃から慣れた時間帯のせいだからでしょうか、心持ち速いペースで街なかを周遊、8時40分頃には2・5km組の第一陣がパン工房シャトアに到着。

店内にはあらかじめ袋に入った朝食セットが用意され、袋の中味は調理パンと三角サンド。これに冷ケースから希望のドリンクをひとつ選び最後にレジで500円を支払います。陳列棚に他に気に入ったパンがあったらプラスして購入します。かくして第一陣の購入がすみ、ひ

と息ついて20分ほどして第二陣が到着。また店内は大賑わい。スタッフを含め約100人が混乱なく朝食セットの購入をすませ中央広場に設けられた休憩スペースに



集合、輪になって朝食をいただきました。たいへん楽しい朝でした。それぞれのテーブルで話に花が咲き、またこういう企画をたてて。今度はどこそこのお店で…などの要望もできました。企画推進係として今後も頑張ろうと思います。ご参加の皆さま、有難うございました。

プレゼント情報

◇パン工房 SYATOA さんでは、健康により「低糖パン」を各種、販売しています(予約制)。今回のウォーキング会を記念して本紙「ささえあい 88号」を持参したお客様に「低糖ラスク」のおまけプレゼントを…とお願いしたところお店からOKができました。本紙ご持参でお買い物の方には「低糖ラスク」1袋がプレゼントされます。ぜひ足を運んでみて下さい。期間は11月末日まで。(編集部)

■訪問看護ステーションからひと言 ⑫

# 連携により柔軟性と 応用力をつける

## 訪問看護ステーション こはる

代表取締役 秋沢洋隆 (あきさわひろたか)



訪問看護ステーションこはるは今年の4月に開所した事業所です。スタッフは総合病院、開業医、介護福祉施設、通所介護など様々な環境で医療、介護に携わった看護師3名と、総合病院、訪問リハビリの経験を積んだ理学療法士2名が在籍しております。今回は、リハビリスタッフの活動を紹介します。

理学療法士は20歳代と30歳代の男性で、パワーは十分ですが社会性・人間性ともに発達途上にあり、日々連携させて頂いている訪問看護事業所、ケアマネジャーや、訪問している利用者さまから色々な事を学ばせていただいています。

私たちリハビリスタッフは、利用者さまが家庭で長く生活できるように、病気によって体力や生活動作の能力が低下してしまった方には「能力の再獲得・機能回復」に向けた最大限の治療を、進みゆく病と一緒に生きていく方には出来る限り「いま」の生活

が続けていくためのケアを、ご希望や状態に合わせて提供することが重要な役割です。

しかし、在宅でこれらを実現するには私達だけでは難しい場面が多々あり、ご家族、各介護サービス事業者さん、医師・医療機関、地域の方々の協力など、実務を行う上でいろいろな方との連携が必要という事を痛切に感じました。そこで、利用者さまの通っているデイサービス等へ訪問させて頂いたり、電話、メール等でご利



用中の様子や身体状況を伺ったり、情報交換をさせて頂いています。希望により、受診に同行し主治医とお話させて頂いたり、医療機関のリハビリスタッフと情報交換させて頂いた場合もあります。

また、訪問するなかで病気やケガ等の障害によって社会参加の機会が減少し、外出や活動が減少してしまっている利用者さまと関わるケースも度々あります。私たちは身体能力や動作に関しての治療は行えませんが、社会参加については、私たち自身が地域を知らなければ提案できないと考え、体操イベントやサロンなどに参加させて

いただいています。これらの活動を通して、様々な人達が互いに支えあえる繋がり的一端が担えればと思っています。

医療・介護の2025年は大きな転換期となり、高齢者像も大きく変化し、価値観・ニーズの多様化が推測されます。それに伴い訪問看護事業もサービスの多様化が求められるよ

うになるのではないのでしょうか。

幅広い知識・技術はもとより、多様なサービスに対応できる柔軟性と応用力を備えて置かなければならないと考えます。そして何より連携が重要と実感しています。

皆様、ご指導のほどよろしくお願い致します。

◎TEL 027・289・5863

◎前橋市堀越町362-3

◎営業時間 平日(月～金) 祝日

(その他 利用者の希望に応じて)

8:45～17:15(土日、年末年始休み)

(今回のひと言募集中。ご投稿を)

人が価値を創り 人に価値を提供する



# 株式会社 石井設計

代表取締役 石井 繁紀

〒371-0023

群馬県前橋市本町一丁目1番3号AMD本町2F

TEL 027-221-1717(代表)

# 介護職～文化を語る

## 第3回 ええっ？文化？

ひと葉の会 花澤町子

唐突ですが、「ひと葉の会」という名前は、私が18歳で舞台にかかわるようになった時、樋口一葉の作品に触れる機会があり、いつか舞台で：と思ったのがきっかけです。その機会はなかなか訪れませんでした。10月1日、前橋文学館で初めて一葉さんの作品を「ひと葉の会 朗読公演」として上演することになりました。

戦後、女性の社会進出は目覚ましく、男女平等とウーマンパワーの嵐が吹き荒れる頃に青春時代を過ごした私が、なぜ一葉の作品に引き込まれたか？

樋口一葉は、明治5年3月25日東

京に生まれ、本名「奈津」といい「夏子」とも自署していました。17歳で父を亡くし樋口家の女戸主として、貧困の中で母と妹を養わなければなりませんでした。「一葉」の名は、今でいうペンネームですが、達磨大師の故事に「昔、インドの達磨大師が中国に法を広げる途中、揚子江を『ひと葉の芦の葉』に乗って下った」との話があり、これにちなんで一葉は「達磨さん」も私も、おあし(金)がないから」と洒落たといえます。

家族を養うため作家樋口一葉は書きまくりました。明治29年11月23日一葉24歳、肺結核で亡くなるまで、



才筆が堰を切ってほとぼしり、『大つごもり』『にこりえ』『十三夜』『たけくらべ』等、名作を『文学界』に連載【奇跡の14か月】といわれました。一葉の描く女たちは、志とは異なる

る生き方をしていても「今に、いまに、相応の働き方をして見せる」と心に深く期しています。しかしその志向は容易に達せられるはずもなく、夢はいつかは覚めなければならぬことを知るゆえに、一葉の女たちは哀しく、作品への思いはつきません。私にとって、一葉さんの描く女性

は憧れの女性です。『十三夜』のお関。お関は夫からDVを受け、実家に逃げ帰るも親に諭され泣く泣く婚家に帰って行きます。「鬼のような夫の住む家に・・・」自分の人生を自分で選ぶことができなかった明治の女性たち、親に従い、夫に従い、ただ泣くだけではなく、必死で生きる道を探し、生きていく・・・

自己主張の強いこの私ですが、なぜか？好きなのです。一葉さんから名前を頂き、「ひと葉の会」と致しました。こんな私が、縁あってこのコーナ

ーを書かせていただく事、恐縮の極みです。「文化」という大げさなことではなく、日頃の想いを綴れたらいいかな？と秋の夜長に物思うこの頃です。(写真提供 根岸 誠氏)



■「父と暮せば」次回公演予定  
11月25日(土) 富士見公民館 二階ホール 午後2時開演

医療、福祉系の物件探しは!

株式会社 藤田ビジネスプロモーター

検索

前橋市問屋町1-1-1 Tel.027-251-4455(代)

戸建からレジデンス ペットとくらす	大小店舗オフィス 倉庫工場	個人から法人	不動産有効活用
アパ   マン	店舗   事務所	建物   土地	不動産活用

■訪問診療の現場から その14

自分で…という患者さん 転倒を心配するスタッフ

中田 裕一 (理事長・医師)

先日、とある老人ホームにて訪問診療を実施した際の話です。いつものように施設の看護師さんの立会いのもとに順番に診察を始め、いよいよ車椅子に乗った小柄な女性、Aさんの順番になりました。

Aさんは関節リウマチが進行し、全身の関節が変形をきたしていました。環軸椎亜脱臼の兆候もあり、脳幹障害をきたして急変するリスクもあるため、ネックカラーが手放せない状況です。

Aさんは診察の場に来るなり、私はそつちのけで看護師さんとやり取りをはじめました。看護師さんも心得ていたように応じ始め、さながらボクシングの第二ラウンド始まりといった様子でした。黙ってやり取りを伺っていると、自分で動きたい患者と、安全のためにそれをさせたくない看護師との間のせめぎあいといった様子でした。

Aさんはトイレに車椅子で移動して立ち上がりまでは自力でしたいので介助するなど言い、介助されるとむしる膝が崩れてバランスを失って倒れそうになると言います。

一方、看護師さんは立ち上がるところから必ず介助を受けるように説得するわけですが、Aさんは聞き入れません。

折り合わない双方の狭間で、私はAさんに「いずれ介助を受けざるを得なくなるわけだから、今から上手に介助を受ける練習をしたらどうでしょうかね」とお話しするのがやっとでした。

Aさんの意欲や自尊心は見上げたものであり、そうやって関節リウマチに関する幾多の困難を乗り越えてきたのだと思います。ただ看護師さんの心配も当然です。無理をして転倒・骨折したら、今まで培ってきたADLが一瞬にして低下してしまうこ

と。そして、自分の監督下においてみすみす骨折を発生させてしまうかもしれないという介護職員の心理的ストレス。

施設の管理責任の問題はいま重大です。ある施設では、施設内で生じた転倒骨折事故の治療などに係る費用は、全て施設側で負担することとしました。結果的に介護職員が萎縮してしまうことで、結局患者さんのADLを制限してしまうことにつながっていると思われれます。

患者さんの意向とリスクの按分は本当に難しいですが、少なくとも介護技術の向上は図らないといけません。

Aさんも、実は職員の介護技術に不安や疑問を感じているだけかもしれません。

それから治療者の私も、患者の意向に寄り添うのは当然として、その意向を安全な行動にうまく転換させることも必要…と深く反省し、考えさせられました。

これからの介護は、質を高めることが重要だと思います。しかしやはりそれは簡単なことではない、と痛切に感じた事例でした。

仕事も遊びも健康第一。

総合印刷

マツダ印刷株式会社

matsuda-insatu@dan.wind.ne.jp

〒371-0852 群馬県前橋市総社町総社 1110  
TEL 027-251-4912/FAX 027-251-4919

PRIUS PHV



群馬トヨペット

本社/〒371-8522前橋市石倉町2-6-5 Tel,027-251-5111(大代表)  
http://www.g-toyopet.jp

クルマと、つぎの楽しみを。  
TOYOPET